

# 令和5年度事業報告書

自 令和 5年 4月 1日  
至 令和 6年 3月31日

## 事業の概要

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが、5月8日より「5類感染症」となり基本的感染対策が求められなくなったことから、公益事業は年度の途中から従来通りに実施することが可能になった。

さて、近年のマイワシ資源量は増大傾向にあり、2023年の釧路沖まき網漁獲量は2022年よりも増加した。しかしながら、水揚げされたマイワシは餌不足による成長悪化が指摘されており、今後、マイワシの資源量とともに棲息に適した海洋環境が形成されるかどうか気がかりなところである。

当協会では魚油及び魚粉の生産状況を迅速に把握するため、(公社)日本フィッシュ・ミール協会の協力を得て、2023年の各魚粉工場から提供される生産データをまとめる方式で調査を行った。データの詳細は後述の『2023年 水産油脂統計年鑑』に収載するが、魚油・魚粉の生産実績の概要は下表のとおりである。

	2022年	2023年	前年比
<b>1. 原料処理量</b>			
ラウンド	230,990トン	312,105トン	135.1%
残滓	619,973トン	570,278トン	92.0%
合計	850,963トン	882,383トン	103.7%
<b>2. 生産量</b>			
			歩留
魚油	66,521トン	71,859トン (8.1%)	108.0%
魚粉	186,533トン	192,787トン (21.8%)	103.4%

この他、魚油等油脂に関連するデータとして、国内・国外における漁獲量、各国の魚油・魚粉の生産量、輸出入量及び価格、植物油等等の消費量、養殖魚及び養魚飼料の生産量等の収集を行った。また、主要港で水揚げされたマイワシ、カタクチイワシ、マサバの栄養成分を中心とした化学分析を(一財)日本食品分析センターに依頼し調査を行った。これらの調査データについては取りまとめを行い『2023年 水産油脂統計年鑑』として2024年5月に刊行を予定している。

講演会のうち「水産油脂資源講演会」は会場に聴講者を入れて開催した。「水産油脂技術懇話会」は1回目はオンラインで、2回目は会場に聴講者を入れて実施した。これらは『水産油脂資源講演会記録』と『水産油脂技術懇話会記録』として刊行した。また、これまでDHA・EPA協議会と共催で実施していた「公開講演会」は、聴講者を入れて開催しオンラインでも同時配信した。定期刊行物としては『2022年 水産油脂統計年鑑』と関心の高いテーマなどを取り上げた『JMOAレポート』を刊行した。ホームページは重要な情報発信のツールとして随時更新した。

## 1. 調査研究

### 1) 国内外の水産油脂及び関連する物資の資源・生産・流通・消費等についての調査

- ① (公社)日本フィッシュ・ミール協会に2023年における国内の原料処理量、魚油・魚粉の生産量・用途について調査を依頼した。
- ② 国内外の資料を収集し漁獲量、魚油・魚粉の生産量、輸出入量及び価格を調査した。また、魚油・魚粉の消費と関わりのある配合飼料生産量や水産養殖等のデータを取りまとめた。

### 2) 水産油脂及び関連物資の機能・性状及び加工利用等に関する調査研究

- ① 銚子港(千葉県)に水揚げされたマイワシ、カタクチイワシ、マサバ並びに釧路港(北海道)に水揚げされたマイワシについて一般成分、脂肪酸組成等の脂質成分を分析した。
- ② 国産・輸入魚油の性状及び脂肪酸組成等について分析した。また、国産・輸入魚粉についても基礎成分をはじめアミノ酸組成等を分析した。

## 2. 広報出版

### 1) 講演会等の開催

- ① 水産油脂の資源及び流通に関する講演会  
2023年8月25日、「令和5年度水産油脂資源講演会」を渋谷区文化総合センター大和田伝承ホールにて開催した。

#### 【演題及び講師】

「マイワシおよびマサバ資源の動向」

国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所  
水産資源研究センター 浮魚資源部 浮魚第1グループ

グループ長 由上 龍嗣 先生

「養殖業の産業原理と成長産業化の課題」

鹿児島大学 水産学部 水産経済学分野

教授 佐野 雅昭 先生

「海洋プラスチックごみ問題の現状

ーマイクロプラスチックを含めてー」

東京海洋大学 学術研究院 海洋生物資源学部門

教授 東海 正 先生

#### 【情報交換会】

資源講演会終了後、講師の先生にも出席していただき参加者との情報交換会を実施した。

- ② 水産油脂及び関連物質等の研究・開発に関するセミナー

「水産油脂技術懇話会」を2回開催した。1回目は令和5年6月23日にオンラインで開催し、2回目は12月5日に当協会新館会議室にて開催した。

【演題及び講師】

「第 40 回水産油脂技術懇話会」

「妊娠中の必須脂肪酸摂取バランスが子の食欲に及ぼす影響」

広島大学 大学院医系科学研究科 口腔生理学研究室

テニユアトラック助教 酒寄 信幸 先生

「第 41 回水産油脂技術懇話会」

「ヒトの睡眠時エネルギー代謝研究から考察する食事性脂肪酸の重要性

～エネルギー代謝と睡眠を仲介する脂肪酸の働き～」

城西大学 薬学部 薬科学科 栄養生理学研究室

助教 矢島 克彦 先生

③ DHA・EPA協議会と公開講演会の共催

令和 5 年 10 月 26 日に第 24 回公開講演会を『食品として健康に寄与する DHA・EPA』  
と題して主婦会館プラザエフにて開催し、Web によるライブ配信を併用して行った。

【演題及び講師】

「DHA・EPA によるトランス脂肪酸毒性の抑制作用機構」

東北大学大学院 薬学研究科 衛生化学分野

助教 平田 祐介 先生

「脂肪酸・脂質代謝関連物質と心血管疾患の新たな関係」

順天堂大学医学部附属浦安病院 循環器内科

准教授 宮崎 哲朗 先生

「DHA/EPA の健康維持増進への活用：機能性表示食品の役割」

大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 寄附講座

教授 森下 竜一 先生

2) 出版

- ① 『第 39 回水産油脂技術懇話会記録 血管内皮機能改善作用を有する新たな機能性脂質の同定』を 6 月に刊行した。  
[筆者：徳島大学大学院 医歯薬学研究部代謝栄養学分野 教授 阪上 浩 氏]
- ② 『2022 年 水産油脂統計年鑑』を 6 月に刊行した。
- ③ 『JMOA レポート No.26 昆虫ミール:魚粉を超えた飼料原料を目指す』を 7 月に刊行した。  
[筆者：愛媛大学大学院農学研究科 教授 三浦 猛 氏]
- ④ 『第 40 回水産油脂技術懇話会記録 妊娠中の必須脂肪酸摂取バランスが子の食欲に及ぼす影響』を 9 月に刊行した。
- ⑤ 『令和 5 年度水産油脂資源講演会記録』を 11 月に刊行した。
- ⑥ 『第 41 回水産油脂技術懇話会記録 ヒトの睡眠時エネルギー代謝研究から考察する食事性脂肪酸の重要性 ～エネルギー代謝と睡眠を仲介する脂肪酸の働き～』を 2 月に刊行した。

- ⑦ 『JMOAレポートNo.27 EPA、DHA 産生微細藻類の特性と魚類養殖への応用』を3月に刊行した。

[筆者：国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所 開発・応用部門  
水産物応用開発部 付加価値向上グループ グループ長 石原 賢司 氏]

### 3) ホームページ

- ① 講演会の開催及び出版物の発刊の案内を随時掲載した。  
② 「魚油・魚粉の貿易統計」は魚油・魚粉の輸入量・価格などを毎月更新した。  
③ 「水産油脂及び関連物資の機能・性状及び加工利用等に関する調査研究」で得られたマイワシ、マサバ等の脂肪酸組成データを新たに88件追加しグラフ及び解説の改訂を行った。  
④ 定期的にアクセス数をモニターした。総アクセス数は7万台に達し、「知っておきたい基礎知識」は前年度より増加した。

	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
総アクセス	73,994	57,552	67,924	61,842
知っておきたい基礎知識	17,300	13,698	19,962	19,077

### 3. 土地・建物施設等の賃貸及びその維持・管理

- ① 本館及び新館を公益法人に賃貸し管理・運営を行った。  
② 本館の外壁改修工事を実施した。また、それと同時に本館東面の4階窓ガラス交換工事および西面外壁の雨樋改修工事も実施した。  
③ パソコンに接続されているサーバとウイルス対策ソフトを更新した。

### 4. その他、本会の目的を達成するために必要な事業

- ① DHA・EPA協議会の事務局を当会館内に置き、同協議会の活動の支援、協力を行った。  
② (公社)日本油化学会・規格試験法委員会へ基準油脂分析試験法の見直し等のため委員を派遣した。  
③ 資金運用規程及び資金運用指針に従い資金運用を行い、評価益、運用益、並びに利金は全てにおいて目標値を上回った。

### 5. 庶務事項その他

#### <会議>

- ① 定時理事会 3回  
② 臨時理事会 1回  
③ 定時評議員会 1回  
④ 評議員選定委員会 1回

#### <その他>

- ① 内閣府に公益目的支出計画実施報告書を6月に提出した。  
② 賛助員 20名

以上